

要素技術分野

橋本浩一

日本ロボット学会誌論文査読小委員会

@RSJ2015オープンフォーラム

目次

1. 要素技術分野について
 - 要素技術分野がカバーする範囲
 - 他の分野との関係
2. 要素技術分野における査読について
 - 求められる内容
 - 査読の基本方針
3. 投稿のメリット
4. アクセプトへの道しるべ

要素技術分野がカバーする領域

- ロボットはさまざまな要素を有機的に結合し、**各要素の特徴を活かす**ことを必要とするシステムである。
- したがって、ロボットに関連するさまざまな要素・技術に関わる領域を扱う。
- **つまり、なんでもあり。**

他の分野との関係

- システム設計・構築、人材育成・社会、実証実験などは、これまで論文になりにくかった研究を取り扱う。
- 論文になりやすいものは要素技術分野へ

求められる内容（論文を通すために）

- 査読方針：新規性、有用性、提案性
- 新規性：新たな知見などが含まれていること
- 有用性：ロボットを利用して、問題解決などに有用であること。ただし萌芽的な内容も評価する。
- 提案性：ロボティクスに寄与する新しい学術・技術領域、コンセプトシステム概念などが提起されている。

日本ロボット学会論文集に 投稿するメリット

- 採録率が高い:
46%(2013), 45%(2014), 47%(2015)
学術講演会特集号71%(2014)
- 採択可否の結果が早い:
3.2M(2013), 2.6M(2014), 3.7M(2015)
- 掲載が早い:
10.3M(2013), 9.6M(2014), 9.2M(2015)

アクセプトへの道しるべ

1. ごちゃごちゃ書かない。すぱっと言い切る。
 - 査読者に何を伝えたいのかをシンプルに(できればひとつに)
 - 言い訳しなければいけないデータは再検討(ストーリー、実験方法、実験条件、図の書き方)
2. 類似論文をちゃんと調べる
 - 引用すべき論文が引用されていないととても印象が悪い **それどころの問題ではありません**
 - 先輩の論文の「はじめに」、「動機」を信じてはいけない
 - google, wikiを鵜呑みにしない

アクセプトへの道しるべ

3. 査読プロセスとは何かを理解してから出す
 - 査読者は論文指導者ではない
 - 査読者が忙しいことを知っておく
 - 内容の正確さは著者が責任を持つ
4. 新規性、有用性、提案性を間違わない
5. 投稿分野(システム、人材、実証、要素)を間違わない
6. ホームランを狙わない
7. あきらめない